

● 顕現後第六主日

泉のほとり

今月の詩編「第九十二編」

いかに楽しいことでしょう

主に感謝をささげることが

いと高き神よ、御名をほめ歌い

朝ごとに、あなたの慈しみを

夜ごとに、あなたのまことを

述べ伝えることは



何を成し遂げて生きようか

ピラトは十字架の上に「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」と書きました。ユダヤ人たちは「ユダヤ人の王と自称した」と書いてください」と主張しましたが、ピラトは「そのままにしておけ」と命じ、ヘブライ語、ラテン語、ギリシャ語で「ユダヤ人の王」と記したのです。

兵士たちは主イエスを十字架につけると、その服を四つに分け、下着は「裂かず、くじ引きで決めよう」と話し合いました。これは「彼らはわたしの服を分け合い、わたしの衣服のことでくじを引いた」と、ダビデの詩篇に預言されたことの成就でした。

ユダヤ人やピラト、兵士たちが特別に邪悪と見えるかもしれませんが、家に戻れば普通の家族の一員であつたかもしれません。十字架は、特定の時代の人々ではなく、すべての罪人の現実を映し出しています。人は心のどこかで「彼らよりはましな人、ましな罪人」と思うのです。それこそ警戒すべき人の闇、罪です。キリストが十字架にかけられたのは「罪人」のためでした。その原点を忘れずに歩みたいと思います。

主イエスの十字架のそばには母マリアがいました。幼子イエスを抱いていたとき、預言者シメオンに「この子は人々の反対にあうしるしとなり、あなたの心を剣が刺し貫く」と告げられました。その預言が十字架のそばにいるマリアの身に現実となっていたのです。

主はマリアに「婦人よ」と呼びかけました。正確には「女よ」という言葉です。「母」とは言わず、「女よ」と。天の父に造られた存在としての本来のマリアを思わせる呼び名です。そしてマリアは自分が産んだわが子の苦しみという事実ではなく、マリア自身のために苦難を受けられた「主」を見なければなりません。主はそばにいた愛する弟子ヨハネを示し、「婦人よ、ご覧なさい。あなたの子です」と言い、ヨハネには「見なさい。あなたの子です」と言われました。

十字架につけられながら、主はマリアのことを思い、最も信頼する弟子に彼女を託されたのです。愛する主、友イエス

のために生涯、その責任をなす弟子のヨハネを思い巡らすのです。

主はすべてを成し遂げ、「渇く」と言われました。更に「成し遂げた」との最後の言葉を発し、息を引き取られたのです。人の罪の代償のささげ物としての犠牲と死を遂げられたのでした。罪には代価が伴います。「水に流す」では済まされません。罪の報いは永遠の滅びです。同じ罪の中にある人は、人の罪を償うことはできません。

主は「わたしは真理を証しするために生まれ、この世に来た」とピラトに証しされました。その誕生から最後の息をされるまで、傷のない屠られる羊として生まれ、ついに十字架の上で「成し遂げられた」と宣言されたのです。人が罪から救われるために、主は最後まで耐え忍び、「十字架の死」を遂げられたのです。

この方こそが「王」である。私の家族である。私の友である。主これ以上に播るぎのない、確かなもの、祝福と幸いがあるでしょうか。主イエスはユダヤ人の王、イスラエルの王として来られました。それは肉による国ではありません。キリストの「十字架」によつて結ばれた国、イスラエルです。

この主が私の家族であるなら、何を惜しむことがあるでしょうか。すべてを主のために注ぎ出しても足りません。キリストに生かされる者は、血縁によらず、キリストに結ばれた者と出会うとき、そこに「家族」としての喜びを見出します。

「あなたの子です。あなたの母です」とは肉によらず、霊によつて結ばれた、それこそ切り離すことのできない家族を表すものです。

主がすべてを成し遂げてくださいました。何を成し遂げてくださったのか、この原点を知り、この原点に立ち、日々を歩みたいと思います。主が傷のないささげ物となり、私の王として、家族として、友となつてくださったように、私も受けた恵みのおりに、「十字架」をもって、人々に真の家族、真の友となつていきたい。そのようにして、十字架の主、キリストの民であることを誇りと誉れとして生きていきたいと心から願います。

2024年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

○ 定例役員会をカナルームで行います。役員の方はご出席ください。

○ イースターに受洗転入会をご希望の方は、本日中に牧師宛願書をご提出下さい。願書は事務所にあります。

《ぶどうの会より》

礼拝後、ぶどうの会を第二・三シオンルームで行います。

《ルツの会より》

礼拝後、公開ルツの会を行います。場所は地下ホールです。出エジプト記一五〜一六章を学びます。聖書讚美歌をお持ちの上、ご参加ください。

《シオンの会より》

二月一九日(水)一〇時三〇分〜一二時シオンの会を第二第三シオンルームで行います。(オンラインも併用します。)テキスト「聖書が教える世界とわたしたち」P.154 救いの完成から読みます。参加をご希望の方は川越啓子姉までご連絡ください。

《味噌作りの会より》

二月一七日(月)地下のキッチンで味噌作りを行います。ご興味のある方はご参加ください。昼食にはお味噌汁がつきますので、おにぎりなどをお持ちください。ご不明なことがございましたら、日比野靖子姉までお尋ねください。

《交読詩篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

〔詩篇九十二篇〕

賛歌。歌。安息日に。

いかに楽しいことでしょう

主に感謝をささげることは

いと高き神よ、御名をほめ歌い

朝ごとに、あなたの慈しみを

夜ごとに、あなたのまことを

述べ伝えることは

十弦の琴に合わせ、堅琴に合わせ

琴の調べに合わせて。

主よ、あなたは

御業を喜び祝わせてくださいます。

わたしは御手の業を喜び歌います。

主よ、御業はいかに大きく

御計らいは、いかに深いことでしょう。

〔司・会〕

愚かな者はそれを知ることなく

無知な者はそれを悟らうとしません。

神に逆らう者が野の草のように茂り
悪を行う者が皆

花を咲かせるように見えても

永遠に滅ぼされてしまいます。

主よ、あなたこそ、永遠に高くいます方。

主よ、あなたに敵対する者は必ず

あなたに敵対する者は、必ず滅び

悪を行う者は皆、散らされて行きます。

あなたはわたしの角を野牛のように上げさせ

豊かな油を注ぎかけてくださる方でしょう。

わたしを陥れようとする者をこの目で見

悪人がわたしに逆らって立つのを

この耳で聞いているときにも。

神に従う人はなつめやしのように茂り

レバノンの杉のようにそびえます。

主の家に植えられ

わたしたちの神の庭に茂ります。

白髪になっても、なお実を結び、

命に溢れ、いきいきとし

述べ伝えるでしょう。

〔司・会〕

わたしの岩と頼む主は正しい方

御もとは不正がない、と。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「僕は聞いております」

聖書 サムエル記上3章6〜10節

説教者 宮間彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「よい王さまと悪い王さま」

聖書 サムエル記上8章1〜9節

説教者 吉村和雄 名誉牧師

●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)

讃美歌 73番 II 195番

説教 「真理に逆らえない人」

聖書 ヨハネ19章31〜42節

説教者 黄允湜 牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 76番 191番
説教 「教会の姿勢を整えて」
聖書 使徒6章1～7節(新約 P.223)
司式 石川 一兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 吉村 和雄 名誉牧師

前奏曲「我が魂、主をたたえよ」D.7 クスナー

○讃美歌76番

1. ほめまつれ 御神をば そのわざに秘めたもう
またき力、またき知恵 たたえまつれ もろびとよ
 2. 地は空をわたりつつ くにぐにを乗せめぐり
つとめの目をあおがしめ いこいの夜をむかえしむ
 3. ものみなはとどまらず はてしなき移ろいや
みことのりにしたがいて 山はうつり 海も消ゆ
 4. おおいなり天つかみ み名にのみほまれあれ
くすしかな御手のわざ こえのかぎりほめうたわん
- アーメン

○聖歌隊による讃美

「全地よ主をたたえよ」 Thomas Tallis作曲
全地よ主に向かい ほめ歌うたえよ
かしこみたえよ 来たりて喜べ
主こそ神にまし われらを統(す)べたもう
われらはその民 その牧(まき)の羊
喜び歌いて みかどを入りつつ
み名をばたたえて 大庭に来たれ
主はめぐみ深く あわれみ永遠(とわ)に絶えせじ
主のまこと固く ときわに変わらじ
永遠(とわ) ときわに

アーメン

○讃美歌191番

1. いともとうとき 主はくだりて
血のあたいても 民をすくい
きよき住居をつくりたてて
そのいはずえとなりたまえり
2. 四方のくにより えらばるれど
のぞみもひとつ わざもひとつ
ひとつのみかて ともに受けて
ひとりの神を おがみたのむ
3. 数多のあらそい み民をさき
世人そしりて なやむれども
かみはたえざる いのりをきき
なみだにかえて 歌をたまわん
4. 世にのこる民 去りし民と
ともにまじわり 神をあおぎ
とわのやすきを 待ちのぞみて
君の来ますを せつにいのる

アーメン

聖餐曲「きよけき心を」J.G.ガアル

後奏曲「神は天の栄光に語り」B.マルチェロ

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。